

令和元年

全員協議会記録

令和元年9月26日

和光市議会

全 員 協 議 会 記 録

◇開会日時 令和元年9月26日(木曜日)
午後 3時00分 開会 午後 3時32分 閉会

◇開催場所 全員協議会室

◇出席議員 18名

議 長	吉 田 武 司 議員	副議長	待 鳥 美 光 議員
1 番	菅 原 満 議員	2 番	猪 原 陽 輔 議員
3 番	熊 谷 二 郎 議員	4 番	鳥 飼 雅 司 議員
5 番	内 山 恵 子 議員	6 番	齊 藤 誠 議員
7 番	伊 藤 妙 子 議員	8 番	富 澤 啓 二 議員
10 番	金 井 伸 夫 議員	11 番	赤 松 祐 造 議員
12 番	小 嶋 智 子 議員	13 番	松 永 靖 恵 議員
14 番	萩 原 圭 一 議員	16 番	富 澤 勝 広 議員
17 番	安 保 友 博 議員	18 番	齊 藤 克 己 議員

◇欠席議員 なし

◇出席説明員

市 長	松 本 武 洋	副 市 長	大 島 秀 彦
企 画 部 長	橋 本 久	総 務 部 長	安 井 和 男
保健福祉部長	大 野 孝 治	総務部次長兼 職員課長	田 中 康 一
総務部次長兼 総務人権課長	寄 口 昌 宏	秘書広報課長	松 戸 克 彦

◇事務局職員

議会事務局長	本 間 修	議 事 課 長	末 永 典 子
議事課長補佐	細 野 千 恵	主 任	小 林 厳

◇本日の会議に付した案件
市職員の不祥事について
介護保険料督促状の誤送付について

午後 3時00分 開会

○吉田武司議長 ただいまから全員協議会を開催します。

本日の案件は、市職員の不祥事について、介護保険料督促状の誤送付についてです。

初めに、市職員の不祥事について説明願います。

松本市長。

○松本市長 本日はお忙しい中、定例会閉会後のお疲れのところ、お時間を頂戴し、まことにありがとうございます。

今般発生した元幹部職員による一連の事件について、本日、埼玉県警より窃盗容疑で再逮捕したという御報告がございました。このたびの件については、市として詳細な内容を把握しておりませんが、県警の発表資料に基づき、皆様に御報告させていただきます。

報道発表資料をごらんいただきながら、お聞き取りをお願いいたします。

今回の案件でございますが、元市職員の東内京一が和光市保健福祉部長として在職していた際に、福祉サービスを提供していた男性から、預かったキャッシュカードを不正に利用し、平成24年11月14日から平成30年12月5日までの間、22回にわたり、現金合計480万円を引き出したとして、窃盗容疑で逮捕されたものでございます。

これまでの逮捕等の経緯については、2の不祥事等の経緯でごらんいただければと思います。

このたびの事件は申し訳ないことでありますし、元市職員がこのように日常的、恒常的に窃盗を繰り返していたことに対して、私自身も非常に強い衝撃を受けております。被害を受けられた方に心からおわびを申し上げる次第であります。

市として、今後とも、引き続き再発防止と信頼回復に全力で取り組んでまいります。

なお、この件と直接関係はございませんが、このたび、児童手当・特例給付額改定通知及び介護保険料督促状の誤送付については、既に議長報告をさせていただきましたが、今後、チェック体制を徹底し、同様の誤りを繰り返さないよう改善を図ってまいります。大変申し訳ございませんでした。

○吉田武司議長 市職員の不祥事について、介護保険料督促状の誤送付について、一括して御説明をいただきました。

今の説明内容を踏まえて、質疑のある方は挙手願います。

赤松祐造議員。

○赤松祐造議員 8月29日のさいたま地裁の公判を傍聴して、最後に、次回の裁判が10月1日ですと言った後、検事が手を挙げて9月末に起訴がありますと報告をしました。市職員も聞いていたと思うのですが、それがこれだと思います。起訴をしますと言っていました。

○吉田武司議長 松本市長。

○松本市長 今回の件は逮捕でございまして、起訴についてはまた別途で、前回2日に窃盗容

疑で通常逮捕されたことに関して、20日に起訴されたという事実のことであろうと思われ
ます。

○吉田武司議長 赤松祐造議員。

○赤松祐造議員 次から次へと、このようなニュースが出てくるわけです。議会でも願いは
していますが、私たちは聞けますが、このような記事が出てくる前に、市長は市民に対して説
明会をするべきだと思います。これは要望です。

○吉田武司議長 鳥飼雅司議員。

○鳥飼雅司議員 介護保険料の督促状の誤送付について、何点かお聞きしたいことがあるので
すが、配付された資料の中に、収納取り込み処理が行われておらず、未納扱いとなったとい
うことですが、収納された介護保険料を手續する上で、長時間かかって放置されたから、この
ようなことが発生してしまったのか。どうしてこのようなことが発生してしまったのか理解がで
きないのですが、その辺の御説明をお願いいたします。

○吉田武司議長 松本市長。

○松本市長 今回の件でございますが、介護保険の保険料が払い込まれたというリストがこち
らにまいります。そのリストに基づいて、請求のところから消し込みをしていく作業を毎日行
っているわけですが、その日の分の作業を担当が見落として、抜けてしまったものがそのまま
残っていて、ある一定の日数が経過すると、督促をするという手續になりますので、チェック
が漏れたまま、督促状が発送されてしまったということでございます。

○吉田武司議長 鳥飼雅司議員。

○鳥飼雅司議員 人的ミスというか、処理ミスということであって、システム上でエラーがあ
ったということではないのですね。

○吉田武司議長 松本市長。

○松本市長 人的なエラーであって、今後の対応については検討中ではありますが、そういった
ものがある際に、システム上でチェック体制が作れないかという点も含めて、再発防止の検討
をしているところでございます。

○吉田武司議長 鳥飼雅司議員。

○鳥飼雅司議員 詐欺事件ではないですけれども、市のほうから督促状が来たとか、官公庁か
ら還付金詐欺が来たとか、結構市民の方も心配されている方が多いので、本当にこのようなミ
スはできる限りなくしてほしいし、再発防止に取り組んでいただきたいということを申し上げ
ておきたいと思います。

○吉田武司議長 齊藤誠議員。

○齊藤誠議員 今回の窃盗容疑の再逮捕ですが、どのような経緯で判明したのか伺います。

○吉田武司議長 松本市長。

○松本市長 今回の件で、直接的には警察のほうの捜査の中で判明したということございま
すが、それ以上の情報はまだ確認がとれていないということでございます。

○吉田武司議長 金井伸夫議員。

○金井伸夫議員 新聞情報では、ATMを使って50万円を27回引き出して、1,350万円の窃盗があったという情報と、ほかの新聞では通帳から6,500万円の現金を奪ったとあるように記憶しているのですが、その辺は今回の逮捕とは関係なく、また余罪が出てくるということでしょうか。

○吉田武司議長 松本市長。

○松本市長 今回は別件でございまして、実際問題として、私たちの内部調査の中で怪しいと思われるもの、ちょっとでも引っかかるものについては全て警察のほうにお伝えしております。

また、警察のほうでも独自にいろいろ捜査をしていますので、私どもも情報を全部は整理しきれておりませんが、これで全てであると言いきることはできない状況であることは間違いございません。

○吉田武司議長 待鳥美光議員。

○待鳥美光議員 今回の元職員の不祥事に絡んで、市の保健福祉行政全般に対して、市民の不信感が募っている段階で、先日の児童手当の誤送付が起こって、先日の一般質問でも申しあげたのですが、まさにその日に、介護保険料の督促状の誤送付が発生しています。毎回、事務処理体制の見直しであるとか、ダブルチェックであるとか、チェックの体制とか書かれていますが、このところの処理のミスを見ていると、もっとそれ以前の個々の意識というか、初歩的なミスであるのではないかと思います。単に事務処理体制の見直しとか、そういうものも必要だとは思いますが、それ以外の職員の意識という部分で、意気消沈したりしている部分もあるとは思いますが、一方で緊張感がなくなっているような感じもしているのですが、その辺についての対応はいかがでしょうか。

○吉田武司議長 松本市長。

○松本市長 今回の介護保険料の督促状の誤送付については、消し込みを忘れた8月22日に発生いたしまして、昨日も御指摘いただきましたが、実際にミスがあったのは8月23日ということです。

いずれにしましても、1人1人の職員の意識の問題も含めて、2つとも単純なミスでございます。児童手当特例納付額改定通知書については1枚1枚プリントするべきところを、両面印刷で送付してしまったという設定をミスした上で、確認をせずに送ってしまったという事案、それから、消し込みについては、単純に消し込みを失念したということで、どちらも単純なエラーで、もちろん仕組みで防ぐということも重要であります。意識の問題ということも御指摘のとおりあると思いますので、この後、各部局の長とそのあたりの対応について、話をさせていただきたいと思っております。

○吉田武司議長 猪原陽輔議員。

○猪原陽輔議員 児童手当と介護保険の誤送付の件ですが、人間誰しもミスをすることはあります。そのための複数チェックだと思いますが、複数それぞれがミスをしてしまうのは、それ

は複数チェックがなされていないということになりますので、現状の市役所の複数チェックの体制はどうなっているのかと思いますが、その辺はいかがでしょうか。

○吉田武司議長 松本市長。

○松本市長 大変申し訳ない話でございますが、複数チェックがどちらもなされていなかったというところで、現在、確認をしております。複数チェックをしっかり徹底していくことによって、当然防げるわけでありまして。先ほども申し上げましたが、機械的なところでアラートが出るような形がもし作れば、これは物にもよりますが、より一層の抑止力になると思っております。

何度も申し上げて申し訳ございませんが、複数チェックを徹底することは大前提だと思っております。今回の場合は、そこが漏れていたということでございます。

○吉田武司議長 菅原満議員。

○菅原満議員 今回、ミスが起きてしまったことについて、御報告をいただきましたが、従来から複数チェックで対応していくということで、ミスが発生した場合、対処してきたという記憶もあります。これに限らず、ミスが起きた場合、なぜミスが起きたのか、複数チェックをしていたら起きなかったのか、それでも起きたのか。

先ほど、市長からシステム上で人為的ミスが防げるかどうかという答弁をいただきましたが、起きたミスから、なぜ起きたのか、避けられなかったのか。緊急の対応策を示していただくことは結構なのですが、事務のミスは発生することを前提に、事務のミスを防ぐフローみたいなものを検討していただき、今後対応をしていただきたいと思います。私の意見として述べさせていただきました。よろしくお願いいたします。

○吉田武司議長 松本市長。

○松本市長 基本的には、ダブルチェックするために、書類にダブルチェック欄を設けるということが、書類を作成する時にあるわけですね。その書類をプリントして、封入をして発送するというプロセスがあるわけですが、今回、その流れの中でチェックができなかったということでございますので、チェックをするという仕組みを確認して、それを守るということが基本だと思っております。

今回の件で思ったことは、ダブルチェックを行わずに、実施していることが実はいっぱいあるのではないかとございまして、大体の場合はミスはないわけですが、何十回あったら1回くらいはミスがあって、それが出てきたのだと思っております。ミスの種となるような事務の不備がいっぱいあるという認識を持っております。そういうことを撲滅していくことを、何しろこのような時期に連続してこのようなあつてはならない単純なミスが発生しておりますので、そこは徹底していきたいと思っております。個々の職員がミスを起こすと、それがどのようなことを招くのか。市長に謝らせておけばいいみたいなことではなくて、1人1人が市民サービスをしている担い手として責任を果たすという現場の心構えというのを再構築していきたいと思っております。

○吉田武司議長 菅原満議員。

○菅原満議員 ミスが起きてしまったことの流れだけではなくて、全体の事務量の問題とか、落ちついて事務ができず、いろいろな業務が錯綜しているなどの事務量の問題もあるので、そういう点も含めて、先ほど検討していかれるという答弁もありましたので、今後よろしくお願ひいたします。

○吉田武司議長 富澤啓二議員。

○富澤啓二議員 同じ件ですが、8月23日に判明してから対象者17名のうち15名の方に直接謝罪をしています、残りの2名の方については、もう1ヶ月以上経過していますが、直接謝罪もしくは電話で謝罪をしているのでしょうか。

○吉田武司議長 松本市長。

○松本市長 消し込みを忘れた日時が8月23日ですが、実際にそれをもとに督促状が発送されたのが9月20日でございます。

そして、9月24日に督促状が届いた4名の方から届いた旨の苦情が来て、それを確認したところ、8月23日の午後に処理すべき消込作業を失念していたことが判明しました。

要するに、未納が発生し、約1か月後に自動的にそれが発送されるというシステムがあるわけですが、考え方として、それを発送する際に、本当にそれが未納なのか、消し込みの忘れなのかをチェックするようなアラートがシステムで組み込めるかもしれませんので、そういった点を検討していくということでございます。

そして、15名の方には直接謝罪をしておりますが、対象者17名全員に謝罪文を送付しているという状況でございます。

○吉田武司議長 安保友博議員。

○安保友博議員 細かいところを根掘り葉掘り聞くという趣旨ではなくて、理解ができない部分があるので、確認をさせていただきたいのですが、消込作業を失念していて、その結果、督促状を二重に送付したことの前提として、通常考えられることとして、リストで毎日上がってきたものを消込作業をしているという答弁がありましたが、常識的に考えれば、消し込みが終わったら何らかの終わったというチェックをして、終わったものを置いておく場所にその書類が入っているはずで、それが抜けていたということが、送ってしまったあとに発覚したということは、単純に本来置くべき場所にその書類が置いていなかったということなのか、該当職員の机のどこかに紛れ込んでいたのか、そのままわからなかったのか、どういう状況だったのか全く想像がつかないのですけれども。

○吉田武司議長 大野保健福祉部長。

○大野保健福祉部長 通常の収納業務については、収納課のほうで取り扱いを行っております、こちらの消込作業については介護保険という形については別のシステムのほうに入れかえるという形もございます。

そのため、消込作業はコンピューター上で行う形になり、ボタン1つで作業を進める形にな

ります。そのコンピューターの作業を行うことを忘れてしまった形になり、該当する職員のほうが、確認は取っておりませんが、自分としてはその日の作業をしたという感覚の中で、翌日の作業をしたという形だと思っております。

○吉田武司議長 安保友博議員。

○安保友博議員 毎日行っているのであれば、翌日作業をする時に、その更新の日時になっていない場合はそこで気がつくはずだったということが本来の姿だったということですか。

○吉田武司議長 大野保健福祉部長。

○大野保健福祉部長 そちらについては、担当職員が本来であれば、昨日消込作業をしていたはずなのに、意思の中では昨日消込作業をしたという安易な思いで、もう終わってしまったという形での確認だったと思います。自分が消し込みをしていないということは一切記憶になかったということです。翌日に消込作業を忘れていたと気がつければ、前日の分の消込作業を行っているはずです。

○吉田武司議長 安保友博議員。

○安保友博議員 もう一度確認ですが、消込作業をするとそのファイルをいじったという最終の日時の更新履歴が残ると思います。翌日更新をかける前を見た時に、あれ、2日前の日時からおかしいぞということを実感するということがよろしいでしょうか。

○吉田武司議長 大野保健福祉部長。

○大野保健福祉部長 大変申し訳ございません。詳細につきましては私もそこまで理解をしていないところでございますが、あくまで、職員が消し込みの確認を行っていなかったものだと思います。もし確認を取っていれば、このような問題は発生していなかったということでございます。

○吉田武司議長 松本市長。

○松本市長 消し込みを前日に行っていないと、アラートが上がるような仕組みを組み込もうと話をしているのは、そういうことでございまして、ちょっと現状ではわかりやすく出ないので、スルーしてしまったんだろうということで、私どもも認識をしているわけですが、前日に一切消し込みがない場合には、作業漏れですので、そこにアラートが出るような組み込みができれば、今回のものは予防できます。

逆に言うと、一日漏れてもわかりやすくなっていないのはちょっと課題なのかなと思います。

○吉田武司議長 安保友博議員。

○安保友博議員 今後の対応としては理解をするところですが、今回の事象が起こってしまった前提としては、ダブルチェックをするはずだったということで、誰かが昨日分の日付に変わっていないということに、担当者もしくはそれ以外の人のどちらかが気がつくべきだったというのが、本来の姿だったと思います。

○吉田武司議長 松本市長。

○松本市長 事務のフローをもう一度確認しなければ明確には言えませんが、この件に関して

は消し込みの担当者が処理をして、それで終わるというフローに今のところなっているんだろうと思います。それは何らかの形で、そうではない形でチェックができるよう変えなければならぬということでございます。

○吉田武司議長 小嶋智子議員。

○小嶋智子議員 お話を伺っていますと、どうしてこの状況が起きてきたという細かい状況を部長も把握されていないのかなと感じました。議会中でお忙しい中ではありますが、答弁をいただくのであれば、どうして起きたのかという詳しい状況を把握して、御説明いただければ大変ありがたいと感じます。

それから、これについては対応は適切に行っていただきたいと思います。緊張感を持って職務を全うしていただきたいという思いがある一方で、相反することをお願いするようで申し訳ないのですが、必要以上に職員の方が委縮されることがあると、新たなミスにもつながってまいりますので、適切な対応をお願いしたいと思います。

○吉田武司議長 松本市長。

○松本市長 しっかりと情報を把握した中で、改善を進めていきたいと思っておりますし、萎縮のかたるといえるのかというのは、しっかりと見極めながら、1人1人が初心に戻って、しっかりと事務を誠実に処理できる体制を作ってまいりたいと考えております。

○吉田武司議長 赤松祐造議員。

○赤松祐造議員 民間の会社ではこのようなミスはよく起こるんですよ。本人は文書を作ってよくできていると思って、いいものができていると思って、2回見ても間違いは見つからないんです。起きないような人間の流れで、そこには校正の得意な人間を配置するなど、適材適所があるはずですよ。

今回、人事の変更があつて、打ち間違いなのかちょっとわかりませんが、差しかえがありました。校正をしっかりとる、チェックが得意な人がいるんですよ。頭がいい、悪いは別にして、欠点をよく見つけられる人がいます。適材適所な人員配置がされているのかどうか。

特に、頭のいい人が作ったものは、作ったら間違いのないと思ひ込むわけです。人員配置のフローをよく考えないと、たった1人の人で、組織の大きな間違いが起きてきますから、その辺は広く人を見て、人員配置をされたほうがいいと思います。考えるのが得意な人と、検査するのが得意な人がいますから、ひとつよろしくをお願いします。

○吉田武司議長 松本市長。

○松本市長 しっかりとチェックができる体制にしていきたいと思っております。

それから、人事の件は間違いではございません。職場上の要請による変更でございますので、大丈夫でございます。

○吉田武司議長 赤松祐造議員。

○赤松祐造議員 議案書の直前の差しかえが、今回はあまりありませんでしたが、前回は多かったですね。そういうのも同じだと思います。

○吉田武司議長 松本市長。

○松本市長 和光市役所に限らず、官庁のチェック体制が非常に間違いが多いという御指摘もございます。幸い、今回は議案の差しかえはなかったわけですが、世間でもこういうことも多いということも情報共有をしながら、緊張感をしっかり持っていきたいと思っております。

○吉田武司議長 ほかに質疑はございませんか。

〔「なし」という声あり〕

なければ、以上にて質疑を終結します。

その他、各議員からございますか。

〔「なし」という声あり〕

なければ、本日の協議事項はこれにて終了しました。

記録につきましては、正副議長に一任願います。

以上で全員協議会を閉会いたします。

午後 3時32分 閉会

議 長 吉 田 武 司

副 議 長 待 鳥 美 光